

塩野室地区まちづくり懇話会

日 時：令和元年 6 月 29 日（土）14:00～

場 所：塩野室地区センター

テーマ：市長講話に基づく意見交換

[対応方針・対応状況]

①小林小・中学校の配置について

〈参加者の発言要旨〉

小林小学校から小林中学校へ進学する生徒数が減っており、地域住民は危機感を持っています。小中一貫教育で、地域の特色を出してやってきたが成果が出ていない状況です。今後の学校配置について結論を導いていただきたいと思っています。

〈市側の発言要旨〉

市では、学校の適正配置を計画的に進めているところです。小林小・中学校についても計画に基づいて、関係者の方と合意形成を図りながら最終的な決定をしていきたいと思えます。

◇対応方針・対応状況

現在、市では、学校の「人づくり」における役割が十分に発揮できるよう、平成 28 年 6 月に策定した「日光市立小中学校の適正配置に向けた基本的な考え方」に基づき、策定後 10 年間を目安に過少規模校の解消等を図るべく、小中学校の適正配置を進めているところです。本計画の中で小林中学校区についても、小中学校の併設を検討することが望ましいと、位置づけられていることから、今後の児童生徒数の動向も視野に入れ、地元の皆様とも検討していきたいと考えています。

②子供たちの防犯対策について

〈参加者の発言要旨〉

子どもたちに対しての、防犯面及び地域の見守り対策はどのようになっているのでしょうか。

〈市側の発言要旨〉

学校の危機管理体制では、危機リスクの高いものに対して、具体的にどう対応するかということを検討しています。また、各学校ではマニュアルを見直し、実際に訓練を行うなど危機管理に取り組んでいます。

◇対応方針・対応状況

危機管理体制に関しまして、まず、通学路の安全確保につきましては市内に15名のスクールガードリーダーを委嘱し、定期的に巡回及び学校との情報交換を行っています。また、登下校時の見守りのために、各小学校はPTAや地域住民に対しスクールガードボランティアを依頼しており、今年度は全市で806名が登録しています。次に、校内の危機管理体制につきましては、不審者、自然災害、野生生物等からの危機回避、発生時の迅速な対応等が実効的に機能するよう、検証、改善が図れるよう、校長会等を通して各学校に周知していきます。

③災害時の土嚢確保について

〈参加者の発言要旨〉

以前の集中豪雨時に土嚢が不足する事態が発生したため、12集落の公民館に砂及び土嚢袋を配備していただければ災害時に対応できると考えています。

〈市側の発言要旨〉

市内に20カ所程度、防災害時用の土嚢として50袋から100袋の範囲で用意しています。状況によっては、その場所を増やしていくことになると思います。

◇対応方針・対応状況

令和元年7月13日に各部の消防団詰所へ、それぞれ50袋の土嚢を備蓄しました。土嚢が不足の際には、今市消防署及び大沢分署の備蓄用土嚢にて対応します。

④災害時の要支援者名簿について

〈参加者の発言要旨〉

災害時の要支援者名簿では、2世帯住宅などで親族がおり、支援が必要ない場合でも登録されているので、実態に即したものにしてもらえればと思います。

〈市側の発言要旨〉

個人情報の問題を考慮し、自治会の隣組の集約をしたかたちで名簿を作成で

きるよう検討しています。

◇対応方針・対応状況

市では避難行動要支援者名簿の作成にあたり、2世帯などの若い世代と暮らしていることは考慮していません。これは、災害は日中・夜間・早朝などいつでも起こる可能性があり、若い世代と同居している場合でも日中独居や高齢者のみの場合などがあるためです。そのため、避難行動要支援者名簿には、基準に該当した方を登録し、その中で同意が得られた方について、平常時から関係機関へ名簿を提供しています。

以上のことから、災害時の避難支援においては自治会ごとに名簿を作成し助け合う方式が特に有効な手段と考えています。今後、自治会長協議会などの中で説明し、ご理解が得られれば自治会による名簿作成を検討していきます。